

「おとなになったら責任が伴います」と言われると、気が重くなるかもしれません。それはおそらく、「責任」という言葉に、問題が起きた時に罰を受ける役といった意味合いがへばりついているからでしょう。でも、「責任」の英訳である responsibility は、そのまま訳せば「反応可能性」、「反応できる能力」といった感じでしょうか。だいぶニュアンスが違いますね。

### 「責任取って辞めます」というやつ

不祥事を起こした組織のトップなどが引責辞任会見を開いたりします。「責任取って辞めます」というやつです。これが「責任」のイメージを重苦しくしていると思います。でもその背景にあるのは、「問題起こした罰として高い地位を剥奪されたんだな(本人の意に反して・・・)」という発想ではないでしょうか。ついでに言えば、その発想は、「自分もその地位の恩恵にあずかりたい」という思いからくるのかもしれませんが・・・。

ところで、この「罰を受けるのが責任」という発想は、「責任取りたくない」という動機につながり、「責任逃れ」の温床になりそうです。これではあまり、おとなのお手本とは言えなさそうです。若い人から見ても、この発想だと、おとなになるのが怖くなってしまいそうです。



### 自分で決められるのが「責任」

ここで、responsibility という英語から「責任」の意味を考えてみましょう。「反応できる能力」というのはつまり、自分で対応を決められるということです。裏を返せば、「責任がない」というのは、最終判断は「責任者」に委ねるということです。「責任がない」というのは一見身軽で楽な感じがするかもしれませんが、この意味では、自分の意思決定をする権限がないということになります。

「おとなになったら自分のことは自分で決められるんだよ」と言われたら、ちょっと、おとなになるのが魅力的になりませんか？

ちなみに、この「反応できる能力」という観点に基づくならば、引責辞任とは罰としての剥奪ではなく、自分の至らなさを自覚し、後任に引き継ぐという意思決定、ということになります。

